

## 現場研修事業の概要

### 1. 東京電力・福島第一原子力発電所

…………… 福島県双葉郡大熊町・双葉町

福島第一原子力発電所事故は、2011年3月11日に発生した東日本大震災に伴う巨大津波により、発電所の電源と冷却機能が失われて起きた原子力事故である。津波により非常用電源設備等が浸水し、全交流電源喪失に至ったことで原子炉の冷却機能が失われた結果、1号機から3号機で炉心溶融（メルトダウン）が発生した。さらに水素爆発により原子炉建屋が大きく損傷し、放射性物質が大気中や海洋へ放出された。



現在の福島第一原子力発電所 1号機

この事故により周辺地域では大規模な避難が実施され、農業や漁業、地域社会にも大きな影響を与えた。現在も廃炉作業や環境回復が続けられており、完了までには数十年を要するとされている。

視察では、1号機から4号機の原子炉建屋を遠望できる高台や見学デッキなどに立ち寄り、建屋の状態や燃料取り出し設備の説明を受ける。特に、爆発により損傷した建屋がどのように補強され、どのような手順で廃炉作業が進められているのかが解説される。

また、汚染水対策として設置された大型の貯蔵タンク群や、多核種除去設備（ALPS）と呼ばれる処理装置についても説明が行われる。これらは原子炉建屋に流入する地下水や冷却水によって発生した汚染水を処理するための設備であり、処理水の管理方法や海洋放出の実施状況やその仕組みなども視察の重要なテーマになっている。さらに、地下水の流入を抑えるための凍土壁や遠隔ロボットによる建屋内部調査など、廃炉作業に用いられている技術についても紹介される。

### 2. 震災遺構 浪江町立請戸小学校

…………… 福島県双葉郡浪江町

浪江町立請戸小学校は、浪江町の請戸漁港の近くに位置する福島県内を代表する震災遺構の一つ。震災当時、在校していた児童と教職員は迅速な避難により全員が無事であり、「奇跡の学校」とも呼ばれている。しかし校舎には地震や津波による被害の痕跡が残されており、当時の状況を実際に見て学ぶことができる施設となっている。

特に被害の大きかった校舎1階部分は震災当時の状態のまま保存されており、津波による破壊の様子を確認することができる。また、津波が到達した校舎2階では、津波被害後の請戸地区の状況や被災体験談、請戸小学校に関する資料などが展示されており、震災の記憶と教訓を伝える場となっている。



### 3. 福島県復興祈念公園 国営追悼・祈念施設整備事業 …………… 福島県双葉郡双葉町・浪江町

福島県復興祈念公園は、国と福島県が連携して福島県双葉郡双葉町、浪江町の両町にまたがるエリアに整備された、約46.4haの大規模公園である。東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂をはじめ、震災の記憶と教訓の後世へ伝承するとともに、国内外に向けた復興に対する強い意志を発信すること等を目的として整備された。

震災以降、福島第一原子力発電所事故による避難が継続している中、地域との連携により、津波や原子力災害等震災の記憶と教訓を後世に伝承するとともに、ふるさとを離れた地域の人々をつなぐ心の拠り所となることを目的とした施設である。

国営追悼・祈念施設は、公園区域内外に広がる震災遺構や、再生・復興していく双葉町と浪江町、海や復興の象徴となる花の広がり等、全方位を一望できる丘を中心とした空間を整備。令和3年1月4日に一部利用が開始され、令和8年4月25日に全面開園を予定している。



#### 【3.11伝承ロード】の取組について

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、東日本の太平洋沿岸約500kmにも及ぶ広い範囲で甚大な被害が発生した。被災地ではそのような被害の実情や貴重な教訓を伝えていくための施設が多く整備されている。一方、それらの震災伝承施設は、複数の県にまたがる広大なエリアに数多く点在し、これらの情報を集め、限られた時間で巡ることは容易ではない。そのため、目的や時間に応じて効率的に施設を訪問できるよう、伝承施設の情報を整理・分類して提供し、案内マップや標識を設置しネットワーク化することとしている。

このように、「3.11伝承ロード」は、震災伝承施設をネットワーク化する取組であり、「震災伝承のプラットフォーム」として地域の防災力の向上と被災地の地域振興を目指すものである。